

imaInjury Alert (傷害速報)類似事例

ネオジム磁石^(※)の誤飲による腸閉塞(No.66 磁石と鉄球の誤飲による小腸穿孔の類似事例14)^(㊦)

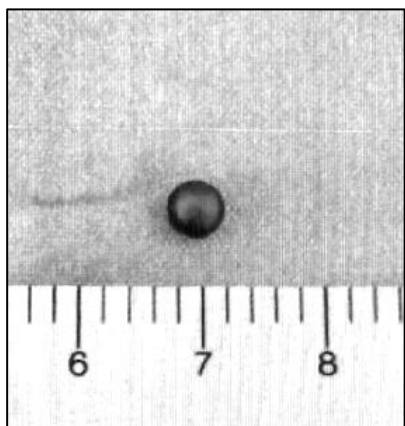
※現存する永久磁石中で最も強力な磁力を持つ希土類磁石で、ネオジム、鉄、ボロンの合金からなる磁石のこと

事例	基本情報	年齢：1 歳 2 か月 性別：女児 体重：9.4kg 身長：74cm
	家族構成	父、母、長兄、長姉、次姉、次兄、本児の 7 人暮らし
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		異物誤飲（複数個の磁石）
医 療 費		入院 114,030 円 外来 2,520 円
原因 対 象	対象名称	ネオジム磁石
	入手経路 使用状況	不明
発 生 状 況	発生場所	自宅
	周囲の人 周囲の環境	不明
	発生年月日	2024 年 5 月 X 日（日）
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	X 日、嘔吐が 4 回あった。X+1 日午前 to 医療機関 A の一般外来を受診した。体温 37.0℃、顔色不良、腹部は平坦、皮膚乾燥軽度あり。便秘症に伴う嘔吐と診断し輸液・浣腸施行し、帰宅した。しかし、その後も嘔吐による経口摂取不良が続くため、午後 7 時 0 分に同施設に時間外受診した。採血にて高ケトン血症（5,100μmol/L）を認めたため、入院となった。

医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	入院後の X+2 日午前 3 時 0 分に茶褐色の嘔吐を認めた。同日に施行した腹部超音波検査で、腸管内液貯留が著明で腸管壁肥厚と腹水貯留を認めた。腹部 X 線写真(図 1)で直径 3mm 程度の円形の隣接する放射線不透過の構造物を 2 個認め、磁石などの誤飲の疑いで三次医療機関 B へ転送した。母から「家に小さな磁石があるのでそれかもしれない。それらを飲み込んでいるとは思わなかった」との発言があった。医療機関 B では、磁石誤飲として当日緊急手術となった。術所見では、上行結腸内と回腸末端から 100cm 口側の小腸内にそれぞれ 1 個ずつ磁石を認め、2 つが腸管壁を挟んで接着していた。腸管壁は著明に菲薄化し、穿通に近い状態であったが、腹水に腸液の混入はなく、穿孔には至っていないと判断された。磁石は上行結腸内の 1 個を摘出(図 2)、小腸内の 1 個は摘出せず保存的管理とした。X+3 日(術後 1 日目)、便に磁石の排出を確認した。経過は順調で X+7 日(術後 5 日目)合併症なく退院となった。
キーワード	磁石誤飲、ネオジム磁石



【図 1】腹部 X 線写真 (X+2 日撮影)
腸管ガスは乏しいが、二ボー像を認めた。また、正中に直径 3 mm程度の円形の構造物を認めた。



【図 2】術中に結腸内から摘出した磁石
直径約 3 mm大の碁石型の磁石であった。